



吉椿雅道さん (特定非営利活動法人CODE海外災害援助市民センター)



1968年 福岡県生まれ。幼少より武道を学び、大学在学中、東洋医学（整体、気功など）の先達に師事する。またそのかわらNGO（先住民、山岳少数民族の支援活動）に加わる。1995年阪神淡路大震災直後に兵庫区、長田区でボランティア活動を行う。その後、福岡に県外避難者を支援するボランティアグループを立ち上げる。‘99年より‘02年までアジアを歴訪。各地の伝統医療やNGOの現場を見て歩く。04年中越地震では被災地NGO協働センターのスタッフとして「足湯ボランティア」などの活動を行う。05年パキスタン地震、06年ジャワ島地震の現場にCODEスタッフとして派遣される。現在、全国各地の防災・減災の智恵を拾い歩いている。

中国四川大地震応援団 第三次パンダタオル班(中国四川大地震支援「パンダタオルプロジェクト」ボランティア)



2009年10月24日～27日中国四川省訪問予定

メンバーは、RSYのパンダタオルプロジェクトに立ち上げ当初からかかわっている方、今までのイベントがきっかけで関わり始めた方々です。いろんな立場で中国四川大地震パンダタオルプロジェクトを応援してくださっています。

栗田暢之 (特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事)

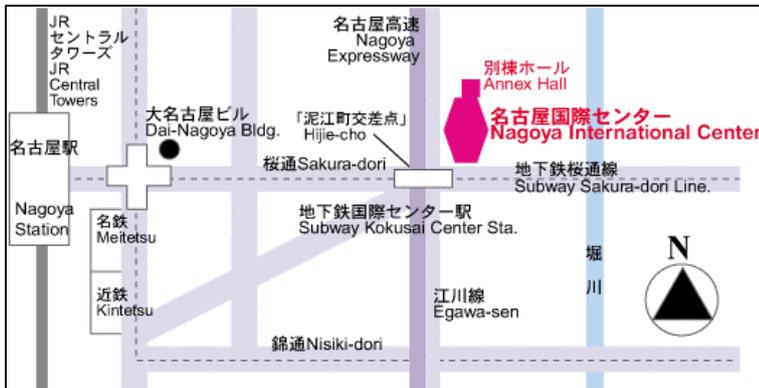


1964年10月22日生まれ、岐阜県瑞穂市（旧穂積町）出身、名古屋市中区在住。

1987年4月より2001年8月まで学校法人同朋学園事務職員。1995年の阪神・淡路大震災時には同朋大学生ら延べ1,432名のコーディネーターとして被災者支援にあたった。同年7月に地元愛知県から継続した支援を行うほか、KOBEの教訓を今後の緊急時に生かすことなどを目的としたボランティア団体「震災から学ぶボランティアネットの会」が設立され、事務局長に就任。2002年3月に同会を発展的に解消して「特定非営利活動法人レスキューストックヤード」が認証され、同法人の常務理事兼事務局長を経て現在に至る。2000年9月の東海豪雨水害時には愛知県庁内に設置された「愛知・名古屋水害ボランティア本部」の本部長を務めた。



名古屋国際センターへのアクセス



地下鉄桜通線「国際センター」駅下車すぐ。
市バス「国際センター」下車すぐ。

名古屋駅から東へ徒歩7分。
JR「名古屋」、名鉄「新名古屋」、近鉄「名古屋」、地下鉄「名古屋」駅から徒歩7分。
地下街「ユニモール」を直進していただくと、地下鉄桜通線「国際センター駅」及び名古屋国際センタービルの地下とつながっています。